

<学校名> 草加市立谷塚小学校

<所在地> 草加市谷塚仲町440番地

<電話> 048-925-2422

<本事例の特徴>

本校は、両親のどちらかが外国籍である児童が大変多く、また、両親ともに外国籍の子供が転入してくることがここ数年、特に増えてきている。これらの児童やその保護者の海外経験を生かした、特別の教科 道徳における国際理解教育の取組について紹介する。

<具体的な取組や成果>

○特別の教科 道徳 「つながっている日本と外国」

- ・教材を読み、日本と外国の違いや日本から外国に行ったもの、外国から日本に来たものを想起させる。
- ・両親ともにモンゴル出身の児童が、家庭にある国のことがわかる物や、料理などを紹介した。母親がフィリピン・父親がペルー出身である子どもは、習慣である宗教の取り組み方について紹介した。写真をタブレット端末で撮影してきてもらい、簡単な説明をして、児童の質問に答えてもらった。

○児童の感想より（一部）

モンゴルの家はもっと小さいと思ったけど、大きくて暮らしやすそうだった。形や色が日本とは違い、面白いと思った。そして、もっと日本から外国に伝わったものや外国から日本に伝わったものを調べたいと思った。

AさんとBさんは外国からきて、こんなに日本語がうまくてすごいと思った。Aさんのおかげでモンゴルの家を見られて自分の家とは全然違うと気がついた。次はちがう国の家を見てみたいと思った。

今日の学習で、外国には日本にない物がたくさんあるのだと思った。また、日本と外国では文化が違うのだと分かった。Bくんの聖書の話聞いて、外国での神様を少し知ることができた。日本の神様はどんな神様がいるのか知りたいと思った。

ぼくはこれまで日本は外国に頼ってばかりの国かと思っていた。でも、この学習を通して日本でもいろいろなものをたくさん作っていたのだと知った。日本は小さいのにすごい国なのだった。

- 写真によるモンゴルの紹介に加え、実物を持って来てもらったことで、児童の興味関心が高まり、積極的に質問をすることができた。
- 日本の文化に気付いたり、外国の文化への興味・関心が高まったりしたことで、タブレットで調べた際にも意欲的に取り組むことができた。また、その後気付いたことや知ったことを自主学習で紹介する児童も増えてきた。